

り、ここからの日田盆地全体を眺望することができる。一方、元大原神社は、大原神社の東南一、五キロほどのところ、日田市神来町にある。延喜年間に、前述の岩松峰から、この地に遷座した後、文明六年（一四七四）に再建、さらに宝暦十年（一七六〇）に再興された。現在も、そうした由緒にふさわしい風格と風情をもった神社である。境内に並ぶ神殿・拝殿・水盤舎等は市有形文化財に指定されている。また境内にある二基の宝篋印塔のひとつは貞和三年（一三四七）の銘を持つ。

官府とのかかわり

大原神社は当然のことながら代官所（官府）の尊崇が厚かったから、淡窓・咸宜園の大原参詣には、官府がからむ記事も多い。

・文政十一年（一八二八）

正月二十一日。塩谷明府大原宮ニ謁シ、帰路余力家ヲ訪ヒ玉ヘリ。初、東家ニ至リ、次ニ淡窓ニ休ヒ玉フ。茶ヲ献シタリ。翌日、余府ニ至リテ之ヲ謝ス。

・天保二年（一八三二）

八月七日。謙吉及門人五十余人ヲ携ヘ、大原ノ神祠ニ謁シ三百拜ヲ行ヘリ。先頃官府ノ難興リシトキ、家人神ニ祈リタリ。故ニ行イテ賽スルナリ。

・天保四年（一八三三）

二月二十日。府君命アリ。諸生ヲ大原ニ会シテ詩ヲ賦セシム。行厨ヲ賜フ。二十一日。又之ヲ永山ニ会シテ臨池ノ技ヲ試ミ、又厨ヲ賜ヘリ。

・天保四年

九月三日。塾生行イテ、大原八幡宮ニ賽ス。今春、官府ノ難有リシ時、塾ヨリ所願セシ由ナリ。石燈ノ下ヨリ、祠壇ニ至ルマテヲ往来シテ三百拜ヲ行ヘリ。

・天保六年（一八三五）

四月十五日。府君命アリ。大原ニ遊ハシム、謙吉ト與ニ門生十五六人

ヲ携ヘテ行キ、厩ノ西廊ニ於テ、詩会ヲナス。是日神廟ニ於テ樂ヲ奏スルコト三闋ナリ。其間ニ於テ各詩一首ヲ賦ス。コレ府君ノ命スル所ナリ。府君ヨリ行厨ヲ賜ヘリ。暮ニ及ンテ帰ル。府ニ至ツテ賜ヲ拝ス。十六日、昨日賦スル所ノ詩ヲ人々ニ命シテ浄写セシメ。之ヲ府ニ献シタリ。

このほか大原神社には、廣瀬家、淡窓の家族等が、冠婚葬祭、日常の出会いや別れなどの場で、しばしば祈り、奉納している。

花見

・天保十四年（一八四三）

三月九日。大原・田島・会処宮ニ至ツテ桜花ヲ観ル。十二日。黒男祠ニ至ツテ花ヲ見ル。二十日。城内観音閣ニ至リ、二十一日。隈ノ南松尾祠ニ至ル。皆花ヲ見ルナリ。或ハ親族ニ伴ヒ、或ハ門生ヲ携ヘ、或ハ行厨ヲ齎（モタラ）シ、或ハ家ニ帰リテ飲酌セリ。

厄払い

・文政五年（一八二二）

六月朔日。朝ニ行イテ大原宮ニ謁ス。今年四十一歳。俗ニ所謂厄ト云フモノナリ。故ニ神ニ謁シテ、安全無事ヲ祈ルナリ。

奉納

・文政十三年（一八三〇）

八月五日。先考大原神宮寺門外ニオイテ、小堂ヲ建テ、弥勒仏ノ像ヲ安置シ玉フ。此日上棟ナリ。予諸弟姪甥ト、先考ニ従ツテ行ケリ。十三日。堂成就シ、像ヲ遷セリ。其時モ亦往ケリ。

病氣平癒の祈願とお礼参り

・文政十年（一八二七）

三月此春、合谷左膳・恒遠頼母、同時ニ来ツテ余力安否ヲ問ヘリ。余、二子、及ヒ謙吉ヲ伴ヒ虚々出遊シ、病後始メテ大原山ノ神祠ニ謁セリ。此時、始メテ新溝ノ水、湯湯トシテ、山下ノ池水ニ注ギタル気色ヲ見テ目ヲ喜ハシメタリ。